

リユース型ブースとマーケティングシステムが 一体化した「凄い展示会」を開発

株式会社 ゼンシン

代表取締役 前田 雄一さん



前田 雄一さん

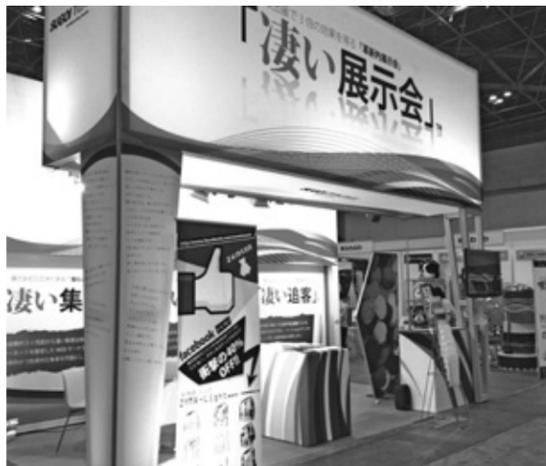
革新的なディスプレイ工法で業界に風穴

展示会やイベント、催事の企画・運営サポート、ブースや部材の開発・販売・施工、什器のレンタルなどを手がける株式会社ゼンシン。平成2（1990）年、同社が催事用ディスプレイの設計・施工から事業をスタートさせた当時、設営・施工の主流は、職人が木材などを一つひとつ釘で打ち、組み立てていく大がかりなものでした。その中で代表取締役の前田雄一さんは、軽量アルミ板材を磁石で張り合わせるといったシンプルで簡易な方法を提案。圧倒的なコストの削減、設営時間の短縮を実現し、大きな成果を挙げました。伝統的な工法やノウハウが固定化した業界に風穴を開ける革新的なアイデアは、今日のゼンシンの成長の礎となりました。

リユース型の展示会ブースを独自に開発

平成13（2001）年に株式会社ゼンシンを設立し、展示会関連事業に本格的に参入。その中で同社が独自に開発したのが、これまで日本ではあまり見られなかった「リユース型」の展示会ブースです。「日本の場合、展示会や見本市のブース制作では、板材などを組み立てる木工作業が中心で、しかも一度使えば廃棄してしまう『使い捨て型』が主流です。この手法はコストがかかる上に、展示会のたびに新たなブースを制作しなければならず、極めて非効率的です。しかも大量の廃棄物を出すため、環境にもよくありません」と、前田さん。そこで同社は、それまで培ってきたディスプレイの設計・施工のノウハウに、展示会開催の先進国である欧米の優れた展示会システムを取り入れ、リユース型のパッケージブース「凄い展示会」を開発しました。

このブースは、独自の設計によって、専門の職人でなくても簡単・スピーディーに組み立てることができるの



低コストで繰り返し使える展示会ブース

環境対策

が特長です。何度も使い回すことが可能な上、軽量の材料を使っているため、3m四方のブースでも、手で持ち運べるサイズのダンボール箱数個に収納することができます。「お客様が自ら展示会場に持ち込み、施工から解体まで行うことができる他、海外の展示会にも簡単に送ることができます」と、前田さんはメリットを語ります。さらに中国の調達チャネルを活用して材料を低コストで調達することで、従来の展示会設営費に比べて圧倒的な低コストを実現しています。

マーケティングシステム「凄い展示会」を開発

今回のファンドを受けて展開する「凄い展示会」の革新的なところは、単なるリユース型の展示会用ブースに留まらず、展示会を活用したマーケティング戦略を含めたトータルマーケティングシステムとして構成されている点です。

『「凄い展示会」とは、展示会前にターゲットを呼ぶ『凄い集客』に始まり、展示会本番の『凄いブース』、さらに展示会後のアフター活動である『凄い追客』までを含めた一連のマーケティングシステムです』と、前田さんは解説します。「お客様の中には、莫大な費用をかけ、展示会を開催することが目的となってしまった結果、本来の目指すべきである効果的な販売促進につながっていないケースが少なくありません。『凄い展示会』では、まずターゲットや目標を明確にすることから始まり、集客方法や顧客管理のノウハウの提案や支援を行います。もちろん展示ブースにも、訴求効果を高めるデザインや工夫を随所に施しています。さらに展示会後のアフターフォローまでを支援。展示会の様子を映像で記録し、SNSやホームページ上で配信するなど、重要ターゲットへのアプローチや販売促進をサポートします」。



訴求力の高いデザインに定評のある展示会ブース

海外展示会出展のトップシェアを目指す

顧客からの高評価が広がり、「凄い展示会」の受注は右肩上がりに増加していますが、ゼンシンは手を緩めません。さらに認知度を高めるために、WEB上でのマーケティングを強化する他、ゼンシン自身も展示会に積極的に出展し、販売促進に注力しています。

「近年は国内のみならず、海外の展示会に出展を考える企業も増加しています。今後はそうした企業への販売促進に力を入れていきます」と前田さん。繰り返し利用できる、コンパクトに収納できる、しかも社員自ら組み立てられるといった「凄い展示会」のメリットは、海外での展示会でいっそう強みを発揮します。

すでに同社ではヨーロッパや中国での展示会出展の実績を重ねています。「海外の展示会出展については当社が先達。リーディングカンパニーとしてトップシェアを目指すつもりです」と、前田さんは力を込めます。

平成26（2014）年2月、ドバイに支店を開設したゼンシン。続いてシンガポール、さらに平成28（2016）年までにはASEAN諸国のすべてに支店を開設するという目標を掲げています。「名実ともに『ゼンシンインターナショナル』に成長することを目指しています」と力強く語る前田さん。ゼンシンの世界への挑戦は、もう始まっています。



海外の展示会にも積極的に出展

事業概要

株式会社ゼンシン

http://www.zensin.jp

代表取締役 前田 雄一

業種：ディスプレイ事業

創業：平成2（1990）年4月

住所：〒601-8126 京都市南区上鳥羽南花名町34番地

TEL：075-748-6039 FAX：075-748-6069